

■ 背景と課題

瀬戸内国際芸術祭等の移動需要が高まる時期において、フェリー・定期船だけでは旅行者需要に対応しきれない状況があり、2019年開催時には積み残しが課題となった。また、同会場となる離島間を、海上タクシーを利用する際の効率的な移動ニーズも高まっている。海上タクシーは各港に係留する際、主に紙での事前申請、承認が必要となり、**情報が一元化されていない**ため、タクシー利用に伴うオンデマンド化の障壁となっている。

■ 目的

現在紙や電話により申請している係留申請について電子化を図り、港湾管理のより効率化を目指し、**海上タクシー手配のオンデマンド化に資する港湾行政事務のデジタル化（DX）**を瀬戸内から目指す。

■ 取組

○瀬戸内海において、旅行者がMaaSアプリ「horai」を使って、フェリー・海上タクシーの予約・決裁等を行うことができるようになっている。（B to Cの電子化）

○一方、海上タクシー等が利用する係留施設の利用手続きは、紙がFAX等のアナログで行われている。

○このため、実証実験として既存システムにより、**係留施設の利用手続きの電子化**を行う。（B to Gの電子化）

※B to C：企業が消費者との間で行われる取引のこと。

※B to G：企業と行政との間で行われる取引のこと。

■ 実証実験

開催日時：令和3年3月13日（土）

場所：高松港県営第2浮棧橋周辺

■ 海上旅客輸送の将来像

○MaaSアプリと係留施設の予約システムの連携により、**利用者から港湾管理者までシームレスに電子手続きが可能**となる。

○さらに、瀬戸内・海の路ネットワークの枠組みにより、**対象者を拡大するとともに、港湾にとどまらない様々な付加価値をつけていくことが期待**される。

出典：四国地方整備局資料等を基に作成



MaaSアプリ「horai」(H31年から実装)

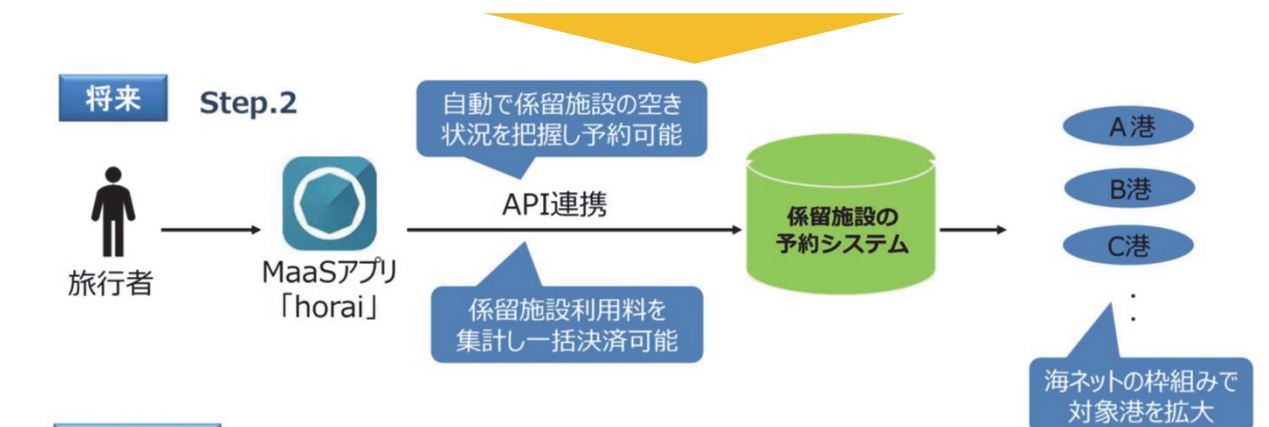
移動手段の検討等の手間を無くし、効率的な旅程を実現する他、海上タクシーの手配・決済が可能な個人旅行者向け観光アプリ(scheme verge(株)開発)。

「horai」で利用できる海上タクシーが対応する島 出典：国土地理院

今回の実証実験

【検証内容】

- ① 港湾管理者が使いやすいシステム要件 (パースウィンドウ形式の予約画面の使いやすさ等)
- ② 係留施設の予約システムとMaaSアプリとの連携方策 (海上タクシー事業者が行っている作業をどのように自動化するか等)
- ③ その他システムの導入にあたっての留意点 (港湾管理者がどのように利用承認を行うか等)



さらに将来 Step.3

- 宿泊施設や交通手段（鉄道・バス・レンタサイクル等）の予約など、様々なサービスとの連動
- 収集したデータに基づく瀬戸内の人流・滞在パターン分析
- 係留施設の需要変動に対応した変動料金の設定
- 他地域に応用可能なサービスプラットフォームの開発・整備